

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	博物館教育論					授業形態	講義		
科目コード	710105	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	宇田津 徹朗								
授業概要	博物館は本来、教育機関の側面を持っているが、生涯学習の機運の高まりや、学校と博物館との連携が重視される中で、教育普及の役割はますます注目されている。 本授業では、国内外の事例の紹介を通して、講座、アウトリーチ、ワークショップ等の、博物館における様々な教育的プログラムの展開を理解するとともに、実物資料を所蔵する博物館ならではの教育の可能性について考察する。 また、当該科目は、学芸員資格の必須科目でもあることから、内容については、学芸員養成の視点から、博物館での教育の実施者とその教育を受ける来館者あるいは博物館利用者の複眼的な視点から講義を行う。								
関連する科目	当該科目は、学芸員資格の必須科目である。そのため、同じ必須科目である博物館概論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館実習、博物館情報メディア論と関連している。								
授業の進め方 と方法	講義では、学芸員資格取得に焦点を当てながら、教科書を中心にしながら、講義形式で授業を進めます。数回のまとまった講義内容が終了した時点で、振り返りの小テストあるいはレポートを課して、知識と理解の定着をはかります。								
授業計画 【第1回】	博物館の教育的な役割について① 教育の本質と目的 【主要内容】日本の学校制度の変遷、教育基本法、社会教育法、博物館法								
授業計画 【第2回】	博物館の教育的な役割について② 博物館教育と学校教育との相違点 【主要内容】学習指導要領、科学コミュニケーション								
授業計画 【第3回】	博物館の教育的な役割について③ 博物館教育の意義と理念、博物館教育の発達 【主要内容】博物館教育の可能性、博物館教育の視座								
授業計画 【第4回】	博物館における教育的活動の広がり① 生涯学習と博物館教育 【主要内容】生涯学習、博物館リテラシー								
授業計画 【第5回】	博物館における教育的活動の広がり② 博物館の利用と学び 【主要内容】博物館の利用実態と博物館体験、教育博物館、オブジェクトレッスン、児童生徒を対象とした博物館、大英博物館、スミソニアン博物館ドイツ博物館、エミュゼ（エコミュージアム）								
授業計画 【第6回】	博物館と学校との連携① 博物館教育史 【主要内容】総合的な学習の時間、新学習指導要領								
授業計画 【第7回】	博物館と学校との連携② 博物館教育の内容と方法 【主要内容】学校と連携した教育活動、ワークショップ、ハンズオン								
授業計画 【第8回】	博物館と生涯学習や医療・福祉との連携① 生涯学習の支援施設、関係法規 【主要内容】博物館の生涯学習機能								
授業計画 【第9回】	博物館と生涯学習や医療・福祉との連携② 博物館と医療・福祉 【主要内容】高齢社会対策基本法、回想法								
授業計画 【第10回】	博物館教育の方法① 博物館教育活動の手法 【主要内容】学習スタイルの類型化、多重知能理論、ワークショップ、ハンズオン								
授業計画 【第11回】	博物館教育の方法② 博物館教育プログラム 【主要内容】大人を対象としたプログラム、子供を対象としたプログラム、環境キャンプ、地域と連携したプログラム、アウトリーチ活動								

授業計画 【第12回】	博物館教育担当者① 博物館教育担当者に求められる役割 【主要内容】博物館法、欧米の博物館の教育担当者、日本博物館協会
授業計画 【第13回】	博物館教育担当者② 教育担当者の実態と育成 【主要内容】教育普及担当学芸員、博物館教育専門職員、ミュージアム・エデュケーター、ミュージアム・ティチャー、インタープリター
授業計画 【第14回】	博物館教育の課題 行財政制度と博物館種に関連した課題 【主要内容】予算制度、人事サイクル、指定管理者制度
授業計画 【第15回】	まとめ 博物館ならではの教育活動の可能性 博物館の教育施設の特徴と可能性 【主要内容】実物（一次資料）、多様な学習の到達点、地域コミュニティの創成・再生
授業の到達目標	①博物館の教育的な役割と、学芸員の教育普及に関わる仕事の内容について理解を深める。 ②博物館教育の最新の状況やITCを活用した新しい手法についての知識を身に付ける。 ③学校教育や生涯学習さらに福祉分野との連携の実際とその仕組みを可能性について理解する。 ④社会人、児童生徒の保護者、地域の自治会や子供会などのコミュニティのメンバーなど、人生の各ステージにおける活動に博物館等の社会教育施設を有効に活用している視点や方法も身につける。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学修 【予習】	講義内容の予告およびシラバスにもとづき、授業で紹介する参考書の熟読。同じく紹介する国内外の博物館HPや文部科学省（文化庁を含む）のHPの閲覧を行ってほしい。
授業時間外の学修 【復習】	授業で配付する資料や紹介する参考書の熟読。同じく紹介する国内外の博物館HPや文部科学省（文化庁を含む）のHPの閲覧を行ってほしい。
課題に対する フィードバック	小テストは採点后、解説を行います。最終試験は、評価後、希望者に対し、解説を行います。
評価方法・基準	1. 小テスト 40点 2. 最終試験 60点
テキスト	ISBN9784762022852 『博物館学（2）』大堀哲/水嶋英治 学文社（税込 2,530円）
参考書	ISBN9784324092460 『博物館教育論』小笠原喜康/並木美砂子 ぎょうせい（税込 3,352円）
備考	